

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2295800078		
法人名	医療法人社団駿甲会		
事業所名	医療法人社団駿甲会グループホーム実夢静波 (1階・2階 2ユニット合同)		
所在地	牧之原市静波203番地の1		
自己評価作成日	平成24年7月10日	評価結果市町村受理日	平成24年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2295800078&amp;SCD=320&amp;P">www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2295800078&amp;SCD=320&amp;P</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成24年7月24日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

開設して2年が経過しました。開設当初から変わらず、パーソンセンタードケアを取り入れ、その人らしく過ごせるよう支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

静波海岸から北に車で数分、地元県立高校に程近いところに事業所があります。「実夢」とは夢を实らせる意味の他に、「頑張らない」「我慢しない」「無理しない」の「3(みつ)つのない」3無(ミム)に由来し、利用者が穏やかに過ごしていけるように支援していくことを旨としています。長所は？の問いに、「職員が素晴らしい」と即座に答えてくれる管理者の言葉に、チームワークの良さや信頼関係への自信が感じられました。機械浴の設備や随所に見られるインテリア配色の妙など、細部に吟味されたと思われる工夫があり、季節毎に取り替える壁のリトグラフにも感性の高さが覗えます。暮らしぶりを知っている者の医療介助が最適であると考えられる管理者の配慮のもと、以前からのかかりつけ医にも職員が同行しています。取り組みの一つひとつから看護師資格を持つ管理者ならではの利用者本位の姿勢が伝わってきます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々に育てていたただきながら、開設2年を迎えました。職員全員で理念を共有しています	玄関先の案内コーナーにホーム理念が掲げられています。開所時に皆で作った理念には、職員一人ひとりの思いが一言ずつ込められていて、毎回スタッフ会議で確認しあい、チームワークで実践へと繋げています。理念を新たに見直す機運も出てきています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は、近所のスーパーへ買い物に出掛けたり、散歩をしながら、地域の方々と触れ合っています。地区のお祭りに積極的に参加しています。駐車場内に掲示板を設置しました。	自治会に加入し、廻ってくる回覧板で地元の情報を共有しています。地域の祭りには駐車場を開放し、また「実夢静波ニュース」も回覧板で廻してもらえるなど、協力体制が構築されています。ボランティアも、フラダンス・マジック・蕎麦打ち・メイクなど多様な受入をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を定期的開催し、班長様に参加頂いたり、広報誌は町内会に回覧し情報の発信に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、開催しています。行政、包括、民生委員、班長様の参加を頂き、指導、助言を頂いています。	運営推進会議は隔月に、自治会、民生委員、市、包括、社協、住民代表、時には利用者の参加を得て開催しています。会議ではボランティア紹介や意見がもらえていて、サービスの向上に活かしています。夏の花火大会に合わせての開催を企画するなど、家族参加の促進も検討中です	今後も家族へのアプローチを続け、会議への家族参加が定例化していくことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、指導、助言を頂いています。	運営推進会議には市の職員も参加し、時には複数での参加もあります。議事録は直接届け、利用者の状況説明にも深い理解を示してもらっています。他施設での受入困難者を市からの要望で受け入れた実績もあり、協力関係が堅固です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしています。定期的な会議で話し合いを行っています。	玄関の施錠はなく「身体拘束ゼロ宣言」をしていて開放的です。スピーチロックは外部研修に職員が参加し、会議で話し合い共有化に努めています。マニュアルも準備し急迫時のための拘束同意書も合意形成のうえ整えられています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ会議での学ぶ機会を設け、「何が虐待に値するのか」意識づけを行っています。		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方がいるため、スタッフ会議で学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居＝事前訪問や面談、施設見学などをさせて頂いています。 退所＝スムーズに続きが行え、ご家族が困ることのないよう支援しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中から意見の吸い上げが行えるよう職員がケアを行っています。ご家族の面会時等にも、意見や要望を出して頂いています。	家族面会は頻回あり、要望や意見を丁寧に聞いています。「実夢静波ニュース」や運営推進会議議事録も毎回届け、情報の共有化を図っています。家族からの進言は少なく、「受診介助など家族の負担を軽減することに努めているため遠慮があるのではないか」との心配もあるとのことでは	運営に関する家族からの意見が少ないということですので、以前おこなっていたアンケートを、設問を再検討し、復活されることも一考かと思われます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議開催で、お互いの情報交換や気づきを話し合い、意見を反映させています。	目標設定に向けた職員アンケートの調査結果をもとに個人面談をおこない、職員意見の反映を図っています。申し送りが綿密丁寧に行われている姿を視認でき、職員の意識の高さが視えました。全員で行うスタッフ会議では業務内容の提案が数多く出され、運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のアンケート調査を行い、各自の意見が言いやすいようにしたり、現況の報告を法人本部に定期的に行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人との連携で適宜、研修に積極的に参加しています。また、外部の研修にも職員が参加できるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修などで、他事業所の職員との交流の機会を持っています。また、法人内のグループホームとの意見交換や情報提供などを行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に個人面談を行い、入所直後にも本人の意向が意向が聴けるよう努めています。ご家族とは別に面談をする機会を設けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時に、ご本人のみでなく、ご家族の相談にもり、入所後は、ご家族の意向や相談が受けれるよう取り組んでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の状況を把握し、その人に合った適切なサービスを提供したり、また、他の介護サービスの情報も含めてご本人、ご家族と話し合えるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、される、立場ではなく、入所されている方々と職員が家族のように過ごせるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に情報を発信し、ご家族の来所時も状況説明等を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を取り入れ、その人主体で生活が送れるよう努めています。ご本人、ご家族の希望があれば、友人の方々の面会の受入れに努めています。	友人知人の面会も多く、馴染みの人との関係が継続しています。菜園植栽や水やりの手伝い、書道、針仕事、塗り絵、手紙や年賀状の支援にも努めています。墓参りの付き添いや、独居であった利用者の自宅チェックにも同行し安心に繋がっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロア毎ではなく、18名と職員が日常生活の中で交流できるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も困りことがあったら、遠慮なく連絡をもらえるよう説明しています。退所後もご家族が訪問されています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で得られた情報を元に、その人らしく暮らせるようセンター方式も取り入れ支援を行っています。	センター方式を活用し、日々の生活の中で思いの把握に努めています。表出された利用者の発語を大切にして支援経過に記録し、全員で共有しています。また、独自のアセスメント様式を備え、入所前、入所時、入所数週経過後のアセスメントを取り、丁寧に取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅でのケアマネさんからの情報を収集したり、センター方式を活用し、経過の把握をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや心身の状況などについて、アセスメントを行い、日々の記録(支援経過、受診記録、排泄記録等)からひとりひとりの現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成の際は、ご本人、ご家族の意向を伺い、職員の日々のケアからも情報を徴収し話し合いを行っています。	本人・家族の意向を担当者がケアプラン会議にもちより、全員での話し合いを経て、ユニット毎に計画作成担当がケアプランを作成しています。センター方式が定着しており、またパーソンセンターケアの実践により、職員の都合目線にならない姿勢があります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のスタッフ会議開催で、お互いの情報交換や気づきを話し合い、意見を反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人らしく生活ができるよう個々の状況に合わせて対応しています。訪問介護サービスの利用などをし、ニーズに対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の方々の訪問や、地域のボランティアさんなどの訪問があります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への定期的な受診、ご家族の協力で受診などを行い、適切な医療が受けられるよう努めています。	「心身の状態を最もよく知る職員の医療介助が最適である」と考えていて、通院できる範囲の全てにおいて職員が介助しています。看護師訪問も週1回あり、連携ノートで情報が共有できています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携ノートの作成で看護⇄介護の情報を共有しています。また、看護師の指示で処置を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体法人病院とももちろん、安心して治療に専念できるよう常に医療機関と連携をとっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と終末期についての意向を伺っています。地域の開業医や訪問看護と連携強化に努めています。医療連携加算もあり、入所時にはご家族に説明を行っています。	見取りの実績は1件ありました。重度化の指針はあり、家族との合意形成はできています。看取った実績の中で、職員の精神的な側面のフォローを反省しながら、外部研修や会議での話し合いを重ねています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職オリエンテーション時や、定期的な勉強会で応急処置の勉強を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を行い毎月消防機器点検を行っています。津波に対しての訓練も行っていきます。	年2回定期的な防災訓練があります。自治会の班長にも参加してもらえ、また事業所も地域の訓練に参加し協力体制を築いています。津波対策として新たに購入した救命胴衣を訓練で実際に使用し、避難方法の確認をしています。次回は消防署指導での訓練を予定しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねるような言葉使いは禁止です。また、方言をうまく使い、親しみのある言葉掛けができるよう努めています。	名前には「さん」付けを基本としていて、丁寧な言葉かけを心掛けています。利用者の生活暦を把握し、また傾聴講座への参加職員も多くいて、個々に合わせた取り組みができています。職員研修では接遇研修も行って、人格尊重の意識の高揚を図っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関わりの中で本人の思いが引き出せるよう努めています。自己決定については、ご本人に確認し支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時に業務(行事)が優先してしまうことがあります。職員の意見を取り入れ、一人ひとりのペースに合わせられるよう、業務の見直しを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院へ行けるよう支援しています。時に御家族の協力で外出されることもあります。お化粧ボランティアさんの訪問も受入れています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みに対応した食事の提供はできませんが、準備など、できることは一緒に行っています。	「いただきます」利用者の発声で昼食が始まりました。完食の利用者が多く、満足の感想が聞かれ食事が楽しめていることが覗えました。2日に1度、食材の買物に利用者とは出かけ、毎月曜日はおまかせメニューを作るなどの工夫もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状況に合わせて、量の調整や水分摂取量などを調節しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しており、必要時は、協力歯科医院への受診を行っています。口腔内が清潔に保持できるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄記録を行い、排泄パターンを理解しています。オムツを外せる生活が送れるよう努めています。	排泄記録は分かりやすく時系列で記録され、一人ひとりのパターンを把握して支援が行われているため、昼間は紙おむつから布パンへの改善向上も見られています。失敗に対しての羞恥心の軽減にも配慮しています。夜間は定時声かけ、または睡眠優先と個別な対応がみられます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や適度な運動を行っています。その方の嗜好品も購入しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日時は決めておらず、その人の意向に沿って安心して入浴できるよう努めています。	毎日、時間帯を選ばずに意向通りの自由度の高い入浴支援ができています。機械浴の設備はあるものの、安易に機械に頼らない入浴を心掛けています。柚子湯や菖蒲湯などの行事湯にも取り組み、足拭きタオルは個々に準備し清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は決めておらず、その方のペースによって過ごしていただいています。日中活動量を増やして、安心して良眠できるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬を管理している場所で、都度、処方されている内容(時間、量、効能、副作用)の説明書を付けて、誰でもわかるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を取り入れ、その人主体で生活が送れるよう努めています。ご本人、ご家族の希望があれば、友人の方々の面会の受入れに努めています。センター方式の記入には、ご家族の協力も得ています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	すべて希望に沿って外出することはできませんが、できるだけ、希望に添えるよう努めています。定期的に外食に出掛けています。	椅子を持出して玄関前で皆で歌を唄ったり、畑作業をして、さり気ない気分転換を図っています。近所のスーパーや大型薬局、公園等、立寄り場所も増えて行動半径が広がっています。誕生日の外食には他の利用者に声かけをして出かけたり、花見遠足、初詣などはドライブで季節を楽しんでいます。	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物がある時は職員と一緒に買い物に行き、自分のお財布から支払うように、お小遣いをお預かりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望された時や、手紙などのやりとりができるよう努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	刺激が少なく、安心して過ごせるよう努めています。また、季節感などが自然に取り込めるよう季節の物の展示などを行っています。	広い廊下にカラーコーディネートされたカーテンと椅子が置かれ、壁には季節にマッチしたリトグラフがあり、落ち着いた雰囲気を演出しています。温・湿度計で空調管理をしていて、食中毒や感染症の注意を怠りません。また、随時の換気で臭いがこもらないなどの心掛けもしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	移動範囲は制限せず、思い思いに過ごせるよう努めています。色々な人と交流できる場を設けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ物を持参して頂いています。持ちこみの荷物は全体的に少ないように感じます。配置はご本人の意向を重視しています。	エアコン、電動ベッド、押入れ収納のクローゼットが備え付けられているほかは、自分の慣れ親しんだ持ち物が持ち込まれています。収納容積が充分なクローゼットのおかげで、身の回り品はスッキリと納まっています。蒲団やシーツの取替えはリネン業者が行い衛生的です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわからなくなってしまうよう、適切な位置に分かるような表示をしています。ご本人の状態に合わせ、できることは継続していけるよう努めています。		